

令和3年度(2021年度)
マイスター・ハイスクール事業

研究実施報告書（第1年次）

令和4年（2022年）3月

北海道静内農業高等学校

巻 頭 言

令和3年度にマイスター・ハイスクール事業の指定を受け、この1年間研究開発を行ってきました。始まったばかりで、まだまだ開発途上の取組に対して、多くの皆様方からのご指導やご支援を賜りましたことに厚く御礼を申し上げますとともに、この間の取組とその成果及び課題について、まとめたので報告します。関係の皆様方には、ご高覧いただき、忌憚のないご意見やご助言を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本事業では、「地域発次世代イノベーター人材の育成～持続可能な日高農業の創り手～」を研究主題とし、これまでの学校主体の取組とは異なり、基礎自治体、知事部局、産業界が全面的に関与し、次代を担う若者を協働して育成するという全国でも最先端となる、新たなモデルケースを創出することを目指しているところです。

今年度は「発見」というテーマをもとに、生徒たちは、社会の第一線で活躍する様々な講師の皆様から知識や技術を習得するのみならず、学校の授業だけではカバーできない専門的な知識や考え方を学ぶことで、驚いたり、発見したりする経験をして、学習意欲の向上に確実に繋がっております。また、多様な価値観を学び、職業選択の幅を広げるとともに、様々なことに挑戦する気持ちが芽生えてきております。

今後につきましては、この事業を通して生徒が地域の産業や職業について理解を深め、自分の生まれ育った町に関心や愛着を持ち、将来、郷土愛を高め、地域に貢献できる人材に育っていくものと期待しております。こうした生徒の将来の姿に近づけるよう、現在進めている企業・団体と連携した授業に加え、より実践的な現場実習の充実を図る必要があります。そのためには、就業体験の意味合いの強い短期間のインターンシップだけではなく、実践的な現場実習であるデュアル派遣実習の充実を図りたいと考えております。また、専門家から学んだ知識や技術を活用し、思考力、判断力、表現力を高める深い学びにつなげる学習として、プロジェクト学習における指導の充実は今後さらに重要と考えております。この学習をとおして、生徒が様々な変化に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構築して新たな価値につなげていくことなど、予測困難な時代の中で生徒に求められる資質・能力の育成を図ることができると考えております。

本校が本事業の成果を維持し、指定終了後もマイスター・ハイスクールとして在り続けるためには、積み残した課題に着実に取り組むとともに、指定終了後においても、プログラムの評価、見直しや本校を支えていただいている企業・団体との連携強化が必要と考えております。次年度は、こうしたことを踏まえて、本事業に取り組むこととしておりますので、関係の皆様のご助言を引き続き賜りたくよろしく申し上げます。

結びに、ご支援・ご指導をいただいた文部科学省をはじめ、北海道教育委員会、本校運営委員会、関係者の皆様方に心から感謝申し上げます、巻頭言とさせていただきます。

令和4年3月

北海道静内農業高等学校長 佐藤 裕 二

目 次

巻頭言

北海道静内農業高等学校長 佐藤 裕 二

目 次

第1章 研究の概要	1
第1節 本事業の構想	2
第2節 達成目標	2
第3節 実施体制	5
第4節 マイスター・ハイスクールCEO	5
第5節 産業実務家教員	6
第6節 3ヶ年の事業計画(具体的な研究開発内容)	7
第7節 ビジュアル図	
第2章 研究の経過	8
第1節 事業運営	8
第2節 校内の組織体制	8
第3節 管理機関の取組・支援実績	9
第4節 マイスター・ハイスクール運営委員会	9
第5節 マイスター・ハイスクール事業推進委員会	
第3章 研究の実践内容	
第1節 町の現状と将来像(生徒が主体的に町の現状と将来像, 地域産業の現状を把握して考察)に関する取組	16
第2節 新ひだか町長による地域が求める人材や職業人に関わる講話に関する取組	17
第3節 職業人材による講話等を踏まえ, 生徒が地域の将来について考察する取組	18
第4節 教育課程の刷新の方向性を検討・改善(次年度, 学校設定科目を設定)	44
第5節 施設見学及び実習など施設・設備の共同利用(産業界, 農業関連施設, 大学等)	45
第6節 各種検定試験(資格)に対する理解を深め, 受験に挑戦する心身の醸成及び受験に関する取組	59
第7節 キャリア・パスポートの活用(指定期間において継続して活用)に関する取組	60
第4章 評価と課題	
第1節 定量的目標の評価	61
第2節 定性的目標の評価	62
第3節 生徒アンケート自由記述による評価	63
第4節 運営委員による評価	68
第5節 次年度以降の課題及び改善点	70
関連資料	
第1節 マイスター・ハイスクール運営委員会議事録	71
第2節 令和4年度入学生教育課程表	77
第3節 令和4年度学年別教育課程表	79
第4節 マイスター・ハイスクールだより	81

第1章 研究の概要

第1節 本事業の構想

1 事業名

地域発次世代イノベーター人材の育成 ～持続可能な日高農業の創り手～

2 事業の概要

北海道は、日本はもとより世界の食糧基地であり、その中で、日高地方は日本最大の馬産地でもある。日高地方に位置している新ひだか町は、人口減少等により、将来、基幹産業を支える人材が不足し地域産業が衰退することが危惧されている。そのため、地域産業の持続的発展をけん引できる人材の確保・育成が急務となっている。このことから、地域の産業界（JA、JRA等）や自治体（新ひだか町長や北海道全体を見渡せる知事部局（農政部）が全面支援）、学校（静内農業高校は、全国一の第一次産業集積地である北海道にあり、園芸・食品・畜産・馬産、農業を支える人材を総合的に育成している国内随一の高校）、これら三者が協働で人材育成を図り、地域創生につながる事業とする。

3 事業目的やその必要性について

(1) 事業目的

これまでの学校主体の取組とは異なり、基礎自治体、知事部局、産業界が全面的に関与し、次代を担う若者を協働して育成するという全国でも最先端となる、新たなモデルケースを創出する。

(2) 必要性

町の基本目標「新ひだか町をけん引する人づくり」、「新ひだか町の魅力発信と町に関わる人づくり」、「人口減少下でも心豊かに暮らせる地域づくり」などを実現するため農業の実践的体験を通して、地域を支える人材であることの自覚や認識を深め、イノベーターとしてのマイスター育成を図る必要がある。

4 地方公共団体(市区町村、都道府県)が掲げる地域産業の未来像(「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付けられている各地域の産業に関する数値目標等)に基づいた5年後～10年後の地域における産業界の姿

(1) 道内外での募集活動の継続的实施や農業求人サイトなどを活用した効果的な情報発信等を通して、地元はもとより全国から農業後継者の確保・育成が進んでいる。

(2) 商工会による「創業支援事業」等と連携した起業及び第三者継承のサポートや事業継承と連動した商店街の空き店舗対策等を通して、起業・事業継承が進んでいる。

(3) 「新ひだか町ドリカム推進制度」による商品開発活動への支援や「新ひだか町推奨品認証制度」による特産品PR、北海道6次産業化サポートセンターとの連携による情報発信及び事業化に関する個別相談等を通して特産品開発等が進んでいる。

5 マイスター・ハイスクールビジョン(本校における人材育成計画の概要)

(1) 高度熟練技能者による指導や企業等と連携した商品開発や軽種馬生産など、地域や産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の推進及び学校設定科目の設定

(2) プロジェクト学習を中核とした教科等横断的な地域課題探究型の学習活動の推進

(3) デュアルシステムを活用した地域の企業等と連携したキャリア教育の充実

(4) 地域や小・中学校と連携した教育活動など、異年齢集団による活動の推進

(5) オンライン授業や実験施設を利用した高度な実験・実習など大学等との連携・協働

(6) 農業経営のグローバル化等に対応するためのeコマースの活用や英語教育の充実

第2節 達成目標

1 定量的目標(数値や数量で表すことができる指標及び目標)

(1) 地域に魅力を感じ、愛着を持った生徒の割合	……在籍者の80%以上
(2) 地域の課題を発見し、解決に向けて多面的・論理的に考え、行動できた生徒の割合	……在籍者の80%以上
(3) 将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合	……在籍者の80%以上
(4) 様々な産業人との交流を通し、自身の進路について考えることができた生徒の割合	……在籍者の80%以上
(5) 自身が目指す進路に関連した資格取得を積極的に行えた生徒の割合	……在籍者の80%以上
(6) ITやICT, IoTの役割を理解し、活用することができる生徒の割合	……在籍者の80%以上
(7) 卒業後、即就農及び地域の主要産業への就職者の割合	……卒業生の50%以上
(8) 卒業後、就農及び地域の技術者を目的とした進学者の割合	……卒業生の40%以上
(9) 英語で日常的なコミュニケーションができるようになった人の割合	……卒業生の30%以上
(10) 在学中に海外の人と交流した人数	……卒業生の50%以上
(11) 将来的な新規参入を目指して進学または雇用就農した人数	……3人以上 (3年間累計)

2 定性的目標(数値化できない指標及び目標)

【自己認識】	自分を客観視する力、自分に対する自信ややり抜く力
【意欲】	物事に対して意欲的に取り組める力
【忍耐力】	根気強く物事にあたる力
【自制心】	自分自身の感情や欲望などをうまくコントロールする力
【メタ認知ストラテジー】	自分が今置かれている状況や理解度を把握する力
【社会性】	リーダーシップがとれ、他者とのコミュニケーションがとれる力
【回復力と対処能力】	問題が起こった時にすぐに立ち直れる、またそれに対応できる力
【創造性】	ものを作ったり、工夫したりする力

第3節 実施体制

1 管理機関

	管理機関名	代表者職名	代表者氏名
学校設置者	北海道教育委員会	教 育 長	倉 本 博 史
産 業 界	J A し ず ない	代表理事組合長	片 岡 博
地方公共団体	新 ひ だ か 町	町 長	大 野 克 之

2 意思決定機関・事業推進機関の実施体制

(1) 意思決定機関の構成(マイスター・ハイスクール運営委員会)

氏名	所属・職
倉本 博史	北海道教育委員会・教育長
北村 英則	北海道日高振興局・局長
大野 克之	新ひだか町・町長
西村 和夫	J Aしずない・副組合長
瀬尾 英生	北海道経済連合会・専務理事
河原 秀幸	新ひだか町商工会・会長
松井 克行	北海道農政部生産振興局技術普及課・首席普及指導員
遊佐 繁基	日本軽種馬協会静内種馬場・場長
諏訪 勝巳	国分北海道株式会社・代表取締役社長
大塚 浩通	酪農学園大学・獣医学群獣医学類教授
森 順子	株式会社ハッピーアロー・代表取締役
佐藤 裕二	北海道静内農業高等学校・校長
長尾 智美	北海道静内農業高等学校・PTA副会長

(2) 事業推進機関の構成(マイスター・ハイスクール事業推進委員会)

氏名	所属・職
桑名 真人	北海道静内農業高等学校・マイスター・ハイスクールCEO (北海道農政部生産振興局・技術支援担当局長)
中西 信吾	北海道静内農業高等学校・産業実務家教員 (日本軽種馬協会静内種馬場・獣医師)
藤井 隆史	北海道教育庁学校教育局高校教育課・指導主事
深戸 紀明	北海道教育庁日高教育局教育支援課・高等学校教育指導班主査
中村 英貴	新ひだか町総務部まちづくり推進課・課長
宮町 良治	日高農業改良普及センター・所長
佐久間信行	北海道静内保健所・所長
椿 淳	北海道経済連合会・食クラスターグループ総括部長
石丸 睦樹	日本中央競馬会日高育成牧場・場長
小島 謙治	日高軽種馬農業協同組合・業務部長
大谷 武史	国分北海道株式会社・顧問
渡辺 勝造	新ひだか町商工会・事務局長
佐藤 裕二	北海道静内農業高等学校・校長
加藤 和則	北海道静内農業高等学校・教頭
池田 功	北海道静内農業高等学校・事務長
平岡 賢一	北海道静内農業高等学校・農場長
中谷 元	北海道静内農業高等学校・教務部長
加藤 真	北海道静内農業高等学校・進路指導部長
小林 忍	北海道静内農業高等学校・生産科学科主任
澤田 英典	北海道静内農業高等学校・普通科主任
須古 洋晴	北海道静内農業高等学校・英語科主任
小山内一弘	北海道静内農業高等学校・情報担当
土田 隆太	北海道静内農業高等学校・英語科

3 管理機関，意思決定機関，事業推進機関の役割

(1) 管理機関(事業の実施方法，支援策について)

ア 北海道教育委員会

本事業の取組が着実に推進されるよう知事部局や基礎自治体，各団体に働きかけ，共同申請者との調整，マイスター・ハイスクールCEOの打診，就任等のほか，事業統括，本事業の実施や評価・改善，事業全体の検証・進捗状況等を管理

イ JAしずない

地域の産業界を代表し，知識・技能を有する人材の派遣，地域資源を活用した商品の開発・販売の方法など事業運営に対する支援

ウ 新ひだか町

指定期間及び指定期間後を見据えた課題の整理，高校段階で育成すべき人材像の検討と具体的支援の検討・実施

(2) 意思決定機関(マイスター・ハイスクール運営委員会)

ア マイスター・ハイスクールCEOと産業実務家教員の選任

イ 新ひだか町が掲げる地域産業の未来像を実現するため，高校段階で育成すべき人材像の検討

ウ 人材育成のための実施計画(マイスター・ハイスクールビジョン)の策定

エ 年3回実施する運営委員会において，「マイスター・ハイスクールビジョン」の検証・改善，進捗管理

オ マイスター・ハイスクール事業推進委員会に対する検証・評価及び指導・助言

(3) 事業推進機関(マイスター・ハイスクール事業推進委員会)

ア 各事業の計画・実践・まとめ・検証・評価・改善(PDCAサイクルの構築)

イ 「マイスター・ハイスクールビジョン」に基づき，育成すべき人材像の育成に必要な学科や年限の改変も含めた教育課程の刷新の方向性を検討，決定

ウ 教育課程の編成・実施

エ 各種取組に係る指導計画の作成

オ 教科等横断的な探究活動を確立するための単元配列表の作成・改善

(4) マイスター・ハイスクール運営委員会が実施する「マイスター・ハイスクールビジョン」及びそれに基づく事業計画についての進捗管理，検証，改善等の仕組み

ア 「マイスター・ハイスクール運営委員会」において，進捗状況及び目標達成状況を「マイスター・ハイスクール推進委員会」が行い，評価・改善の方向性等について協議する。

イ 検証時期は，毎年度末に行い，PDCAサイクルを機能的かつ効果的に実行する。

ウ 事業報告については，学校及び新ひだか町のウェブページのほか，学校だよりや町の広報誌を活用するなど，学校関係者や地域住民に周知するとともに，意見等を募集して本事業の改善に資するものとする。

(5) 本校における事業推進に係る分掌組織体制，教職員の役割

ア 「マイスター・ハイスクール事業推進委員会」の構成

CEO，校長，教頭，事務長，農場部，教務部長，進路指導部長，普通科主任，英語科主任

イ 「マイスター・ハイスクール事業推進委員」の役割・構成

(ア) CEO：全体統括 教頭：渉外・調整 事務長：会計

(イ) 農場部：企画運営・庶務

(ウ) 教務部：カリキュラム及び時間割調整

(エ) 進路指導部：外部講師講演(1年次進路に関わる部分)及び資格取得

(オ) 普通科主任：普通教科との授業連携及び調整

(カ) 英語科主任：資格取得

第4節 マイスター・ハイスクールCEO

1 経歴等

(1) 氏名 北海道農政部技術支援担当局長 桑名 真人 (くわな まひと)

(2) 経歴など

1985年	北海道大学農学部農業経済学科卒業
同年	北海道庁入庁 釧路支庁経済部農務課に勤務
2006年	農林水産省経営局普及・女性課課長補佐
2008年	北海道経済部商工局産業振興課主幹
2010年	北海道農政部農業経営局農業経営課主幹
2012年	北海道根室振興局地域政策部長
2014年	北海道農政部農政課政策調整担当課長
2016年	北海道農政部生産振興局農産振興課長
2018年	北海道総合政策部政策局研究法人室次長 (地方独立行政法人北海道立総合研究機構 派遣)
2020年	北海道農政部生産振興局技術支援担当局長

2 業務内容

- (1) マイスター・ハイスクール事業推進委員会の委員長として、「マイスター・ハイスクールビジョン」の実行のための中核となり、職業人材育成システムの構築を目指すとともに、指定校における取組を統括するコーディネーターとしての役割を担う。
- (2) 学科や年限の変更も含めた教育課程の刷新の方向性について、大学や研究機関、産業界との連携等を行う。
- (3) 専門的な知識・技術等に基づき、指定校教職員の資質・能力を向上させるための指導・助言を行う。

第5節 産業実務家教員

1 経歴等

(1) 氏名 日本軽種馬協会 (JBBA) 中西 信吾 (なかにし しんご)

(2) 経歴など

1980年	北里大学獣医畜産学部獣医学科卒業
同年	社団法人日本軽種馬協会入会 東京本部業務部, 七戸種馬場, 静内種馬場に勤務
1988年	九州種馬場長
1992年	胆振種馬場長
1997年	静内種馬場長
2003年	東京本部業務部首席調査役
2005年	東京本部業務部長・那須種馬長(兼務)
2009年	静内種馬場長・軽種馬生産技術総合研修センター長(兼務)
2017年	静内種馬場長
2019年	静内種馬場軽種馬生産技術総合研修センター長・種馬課
2020年	静内種馬場軽種馬生産技術総合研修センター・種馬課

2 業務内容

- (1) 担当教科・科目 農業・馬学 (3単位), 農業・馬利用学 (3単位)
- (2) 教員対象の校内研修の講師
- (3) 軽種馬生産に係る実践的な支援
- (4) 放課後における馬術部に所属する生徒への支援

第6節 3ヶ年の事業計画(具体的な研究開発内容)

1 1年目事業計画

- 発見**
- ①生徒が主体的に町の現状と将来像，地域産業の現状を把握して考察
 - ②新ひだか町長による地域が求める人材や職業人に係る講話
 - ③職業人材による講話等を踏まえ，生徒が地域の将来について考察
 - ④教育課程の刷新の方向性を検討・改善（次年度，学校設定科目を設定）
 - ⑤施設見学及び実習など施設・設備の共同利用（産業界，農業関連施設，大学等）
 - ⑥各種検定試験（資格）に対する理解を深め，受験に挑戦する心身の醸成及び受験
 - ⑦キャリア・パスポートの活用（指定期間において継続して活用）

2 2年目事業計画

- 挑戦**
- ①専門的知識・技能を有する職業人材を活用した講義及び実践的研修
 - ②研修(ICT, IoT を活用している農業施設及び農業機械を実地視察，研修)
 - ③施設見学及び実習など施設・設備の共同利用（産業界，農業関連施設，大学等）
 - ④馬の仕事に必要な技術・資質が分かる達成表（『ホースマン・レベルアップ・チャート』）の作成
 - ⑤「うまキッズ探検隊（仮称）」を企画し，子どもに馬の魅力を伝えるイベントを実施
 - ⑥産業界等と連携した食品に関する新たな商品開発・販売の基礎研究
 - ⑦遠隔システムを活用した海外の学校との交流

3 3年目事業計画

- 進化**
- ①専門的知識・技能を有する職業人材を活用した講義及び実践的研修
 - ②研修(ICT, IoT を活用している農業施設，農業機械を実地視察，研修)
 - ③施設見学及び実習など施設・設備の共同利用（産業界，農業関連施設，大学等）
 - ④特別支援学校と連携した「乗馬交流（馬セラピー）」の実証研究
 - ⑤デュアル派遣実習及び農業インターンシップの実施
 - ⑥産業界等と連携した食品に関する新たな商品開発・販売，収益活用のシステム構築
 - ⑦海外の学校への訪問交流事業

4 成果の普及，国の指定期間終了後の取組

成果の普及について，指定期間終了年（令和5年度）に，先進校として研究成果報告会を実施するとともに，実践報告書をまとめ，地元自治体及び関係機関，全道の専門高校に配付する。また，学校HP，インスタグラム，フェイスブック，ツイッター，You Tubeで活動状況や成果を定期的に掲載・更新し，全国に周知・発信する。指定期間終了後の取組について，地域の奨学金制度を立ち上げ，上級学校への進学後も地域産業への就職・起業支援を組織的に行い，地域人材育成を継続する。終了後は新ひだか町や指定校における教育振興会から支援を受け，地域や関係機関と一体となった人材育成システムを維持・発展させる。

管理機関名 (北海道教育委員会/JAしずない/新ひだか町) 学校名 北海道静内農業高等学校

地域発次世代イノベーター人材の育成～持続可能な日高農業の創り手～

事業の目標

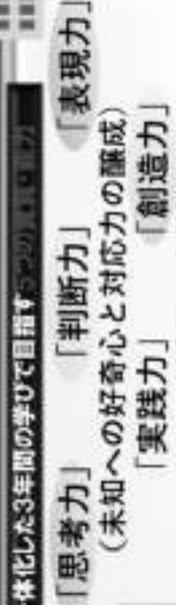
軽種馬、野菜生産や食品加工など、特色ある日高の農産業の実践をとおして、地域産業の課題解決の一助を担うとともに、フロンティアスピリッツのもとに地域と産業の持続的発展をけん引するイノベーターとしてのマイスター育成を図る。

マイスター・ハイスクール運営委員会



静内農業高校

(教育目標) 自ら考え正しく判断できる力を養い、たくましく生涯を生きる生徒を育てる



卒業後の姿(専門性を生かしたマイスターを育成)

- ◆地域の担い手、高度な技術者、六次化を推進する人材、地域創生の担い手(獣医・芸術師・コンサイナー・GAP指導員)※頭等全制度の導入
- ◆専門技術で新しいビジネスを提案できるイノベーター
- ◆地域資源を商品化できる人材 ◆世界で活躍するグローバル人材

静内農業課題解決学習と3カ年計画

3年次 「進化」 (evolution)	発展探究2	資質・能力の育成	主な学習活動
2年次 「挑戦」 (challenge)	発展探究1	<ul style="list-style-type: none"> ○表現力、実践力 ○自己認識 ○社会性 ○回復力と対処能力 	<ul style="list-style-type: none"> ○デュアル派遣実習 OICT研修 ○GAP・HACCP認定審査 ○大学等での研修・実習 ○海外との文化交流 ○キャリア・パスポートの活用
1年次 「発見」 (discover)	基礎探究	<ul style="list-style-type: none"> ○情報収集能力 ○創造力 ○思考力、判断力 ○忍耐能力 	<ul style="list-style-type: none"> ○オンラインショップ OICT研修 ○GAP・HACCP研修審査 ○商品開発・販売の基礎研究 ○キャリア・パスポートの活用
		<ul style="list-style-type: none"> ○課題発見能力 ○コミュニケーション力 ○コミュニケーション力 ○道徳 ○自覚心 	<ul style="list-style-type: none"> ○企業等の施設・設備の利用 ○講座及び基礎研修 ○OICT研修 CGAP・HACCP研修 ○キャリア・パスポートの活用

マイスター・ハイスクール事業推進委員会

- (マイスター・ハイスクールGEO、静内農業協賛校)
- ★マイスター・ハイスクールビジョンに基づいた取組や最先端の職業人材育成システムの構築、育成すべき人材の育成に必要な学料や年限の改変も含めた教育課程の刷新の方向性を検討、決定
 - ★各事業の計画・実践・まとめ、検証・評価・改善 (PDCAサイクルの構築)
- (委員会の構成)
CEO: 全体統括、校長・教頭; 渉外・調整、事務長; 会計、農産部; 企画運営・庶務、教務部; カリキュラム及び時間割調整、道路指導部; 外部講師派遣 (1年次進路に関する部分) 及び資格取得、習熟科主任; 普通教科主任の授業連携及び調整、英語科主任; 資格取得 (英検)、情報担当; 情報発信

30頁 資料 10

第2章 研究の経過

第1節 事業運営

1 契約締結 令和3年(2021年)6月22日

第2節 校内の組織体制

係	業務内容	担当(◎チーフ)
総務	全体統括	CEO(校長)
	渉外・調整	◎教頭, 農場長
	企画・調整	◎農場長, 学科主任
	企画(各部門)・生徒指導	◎学科主任
会計	会計業務全般	◎事務長, 教頭
教務	教育課程編成及び時間割編成	◎中谷
	普通教科との授業連携及び調整	◎澤田
進路	進路に関わる外部講師講演及び資格取得	◎加藤・学年主任
庶務・情報	取材依頼・情報発信(ホームページ・SNS等)	◎里見・土田
	宿泊・弁当・バスなどの手配	◎土田・里見
	依頼状・礼状の作成, 送付	◎土田・里見
	アンケート調査・集計, 報告書作成	◎小山内・里見
	会場設営・撤去(運営委員会等)	◎小山内・土田・里見

第3節 管理機関の取組・支援実績

1 実施日程

(月)	実施日程											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
運営委員会					○		○			○		
授業力向上セミナー							○					
マイスター・ハイスクールだより								○		○		○

2 取組・支援実績

北海道教育委員会としては、事業の開始に当たり、運営委員やCEO、産業実務家教員を委嘱するため、学校や新ひだか町、JAしずない、北海道農政部などと連携し、有識者の紹介を行った。また、運営委員会の開催に当たり、委員への通知や資料の作成などについて取りまとめ、進行を担った。CEOが兼職であったことから、CEOとの連携を密にし、学校がスムーズにCEOと連携が図れるよ

う、常に情報共有するよう努めるとともに、関係機関との連携を密にするため、訪問し事業への理解を得るよう取り組んだ。

10月には、外部講師を依頼している企業からの要望があり、学校が企画した「授業力向上セミナー」に、民間講師とともに、高校教育課の農業担当指導主事が講師として対応した。また、「マイスター・ハイスクールだより」を3回発行し、本事業の取組が地域との連携に係る教育活動を実施する際の参考となるよう全道の高校に周知した。

新ひだか町としては、道教委とともに運営委員などの委嘱に当たり、学校に対して助言を行うほか、地元自治体として、地域の課題について生徒が考える機会を設けるなど、事業を支援した。また、新ひだか町の大野町長は、運営委員会の委員長として、議事の進行及び議論の取りまとめを行った。

J A しずないとしては、新ひだか町と連携を図りながら、主に日高農業の学習について、学習機会を設けるなど、学校への支援を実施した。また、西村副組合長は、運営委員会の副委員長として、委員会の円滑な進行を支援した。

第4節 マイスター・ハイスクール運営委員会

マイスター・ハイスクール事業におけるすべての意思決定・統括機関として「マイスター・ハイスクールビジョン」の作成、高等学校で育成すべき人材像の検討、数値目標・指標の設定など研究指定校に対して専門の見地から指導・助言を行うことを目的として、マイスター・ハイスクール運営委員会を次のとおり実施した。

期 日	内 容
8月17日(火)	方 法 内 容 オンラインによるリモート会議 マイスター・ハイスクール事業の概要について 静内農業高校におけるマイスター・ハイスクール事業について 質疑応答、指導・助言
10月22日(金)	会 場 内 容 北海道静内農業高等学校 学校概要説明・視察 授業視察「馬の産業」 農場視察 指導・助言、意見交換
1月28日(金)	方 法 内 容 オンラインによるリモート会議 事業報告 生徒による事業報告 定量的評価、定性的評価、次年度の取組の方向性 協議 検証・評価(指導・助言)

第5節 マイスター・ハイスクール事業推進委員会

事業推進委員会は、主に食品科学科、生産科学科馬事コース、生産科学科園芸コースの部門ごとに開催した。本校の立地条件を考慮し、オンラインミーティングを積極的に活用して事業が円滑に実施できるよう取り組んだ。開催内容は、次のとおりである。

実施日	場所	参集者	内容
5月17日(月)	日本軽種馬協会静内種馬場	日本軽種馬協会静内種馬場 場長 遊佐 繁基 様 獣医師 中西 信吾 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 教頭 加藤 和則 教諭 小林 忍	事業概要の説明
6月3日(木)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 所長 宮町 良治 様 主任普及指導員 太田 浩太郎 様 北海道静内農業高等学校 教頭 加藤 和則 教諭 三浦 創	園芸事業計画に関する打合せ
6月4日(金)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 所長 宮町 良治 様 主任普及指導員 太田 浩太郎 様 北海道静内農業高等学校 教頭 加藤 和則 教諭 三浦 創	園芸事業計画に関する打合せ

6月7日(月)	日本軽種馬協会研修センター	日本軽種馬協会静内種馬場 獣医師 中西 信吾 様 北海道静内農業高等学校 教諭 小林 忍	馬部門事業計画の方針に関する打合せ
6月14日(月)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 主任普及指導員 太田 浩太郎 様 北海道静内農業高等学校 教諭 三浦 創	園芸部門事業に関わる講師選定に関する打合せ
6月17日(木)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 主任普及指導員 太田 浩太郎 様 主査 小林 佐代 様 北海道静内農業高等学校 教諭 三浦 創	園芸部門事業内容に関する打合せ
6月22日(火)	(1)酪農学園大学 (2)北海道教育委員会 (3)北海道経済連合会 (4)北海道農政部 (5)国分北海道株式会社 (6)北海道放送 (7)北海道中央農業試験場	(1)酪農学園大学獣医学類教授 大塚 浩通 様 (2)北海道教育委員会高校教育課 キャリア教育指導係課長補佐 高田 安利 様 キャリア教育指導係指導主事 藤井 隆史 様 (3)北海道経済連合会 専務理事 瀬尾 英生 様 食クラスターグループ統括部長 椿 淳 様 (4)北海道農政部 生産振興局技術支援担当局長 桑名 真人 様 技術普及課長 鈴木 章代 様 技術普及課首席普及指導員 松井 克之 様 農政課長 鈴木 賢一 様 競馬事業室室長 赤池 政彦 様 競馬事業室主管 太田 訓英 様 (5)国分北海道 経営統括部長兼人事総務部長兼地域共創部長 青山 知夫 様 人事総務部人事総務課長 橋本 吉人 様 地域共創部商品共創課主任 大井 嘉明 様 物流システム部物流営業課主任 中村 哲也 様 物流・システム部物流運営課主任補 森 智紀 様 地域共創部商品共創課MD担当主任補 鳴海 絢子 様 地域共創部商品共創課主任補 鈴木 美風 様 フードサービス事業部営業1課営業業務担当 兼地域共創部商品共創課主任補 谷内 里穂 様 量販事業部低温営業課営業担当兼地域共創部 商品共創課主任補 武藤 柚香 様 人事総務部人事総務課 兼経営統括部主任 松本 智貴 様 (6)北海道放送 コンテンツ制作センター統括 兼情報政策部長 藤枝 孝文 様 (7)北海道中央農業試験場 北海道農政部生産振興局技術普及科農業研究本部駐在 (技術普及室) 上席普及指導員 斯波 肇 様 独立行政法人北海道立総合研究機構 農業研究本部中央農業試験場 病虫部長 浅山 聡 様 農業環境部部長 渡邊 祐志 様 企画調整部企画課長 神野 裕信 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 教諭 平岡 賢一 教諭 千代 武志 教諭 小林 忍	概要説明、事業打合せ
6月22日(火)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 主任普及指導員 太田 浩太郎 様 地域第一係長 伊藤 貴人 様 主査 千田 智子 様 北海道静内農業高等学校 教諭 三浦 創	農家視察内容に関する打合せ
6月23日(水)	日本軽種馬協会研修センター	日本軽種馬協会静内種馬場(産業実務家教員) 獣医師 中西 信吾 様 北海道静内農業高等学校 教諭 小林 忍	事業計画の方針及び到達目標に関する打合せ
6月30日(水)	(1)北海道総合研究機構 (2)北海道放送 (3)札幌テレビ	(1)北海道総合研究機構 北海道農政部生産振興局技術普及科農業研究本部 駐在(技術普及室)上席普及指導員 斯波 肇 様 独立行政法人北海道立総合研究機構 農業研究本部中央農業試験場 病虫部長 浅山 聡 様 農業環境部部長 渡邊 祐志 様 企画調整部企画課長 神野 裕信 様 (2)北海道放送 コンテンツ制作センター統括 兼情報政策部長 藤枝 孝文 様 コンテンツ制作センター 兼情報政策部プロデューサー 栗山 亘 様 情報政策センター報道部記者 木下 純一郎 様 (3)札幌テレビ 取締役事業局長 坪内 弘樹 様 事業局次長兼コンテンツ部長 黒田 育郎 様 事業局コンテンツ部 大阪 しの 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 教諭 平岡 賢一	事業内容に関する打合せ

6月29日(火)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 所長 宮町 良治 様 主任普及指導員 太田 浩太郎 様 北海道静内農業高等学校 教諭 三浦 創	北海道総合研究機構 に依頼する授業内容 に関する打合せ
6月29日(火)	北海道静内農業高等学校	北海道静内農業高等学校(校内推進委員) 教頭 加藤 和則 教諭 平岡 賢一 教諭 千代 武志 教諭 小林 忍 教諭 三浦 創 教諭 田中 彩佳	電子メールによる情報共有と業務用情報の整理について確認
7月7日(水)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 主任普及指導員 太田 浩太郎 様 地域第一係長 伊藤 貴人 様 北海道静内農業高等学校 教諭 三浦 創	農家視察先の選定に関する打合せ
7月9日(金)	日本軽種馬協会研修センター	日本軽種馬協会静内種馬場獣医師 産業実務家教員 中西 信吾 北海道静内農業高等学校 教諭 小林 忍	事業計画の作成及び授業内容に関する打合せ
7月16日(金)	日本軽種馬協会静内種馬場	日本軽種馬協会静内種馬場 場長 遊佐 繁基 様 北海道教育委員会高校教育課 キャリア教育指導係指導主事 藤井 隆史 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 マイスター・ハイスクールCEO 桑名 真人 産業実務家教員 中西 信吾 教頭 加藤 和則	事前説明及び業務依頼
7月19日(月)	日本中央競馬会日高育成牧場	日本中央競馬会日高育成牧場 場長 石丸 睦樹 様 研究役 村瀬 晴崇 様 業務課長 立野 大樹 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 教頭 加藤 和則 産業実務家教員 中西 信吾	事前説明及び業務依頼
7月26日(月)	新ひだか町役場	新ひだか町長 大野 克之 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 教頭 加藤 和則 教諭 平岡 賢一	授業に関する打合せ
7月28日(水)	日本軽種馬協会研修センター	日本軽種馬協会静内種馬場 装蹄師 金子 大作 様 北海道静内農業高等学校 教頭 加藤 和則 産業実務家教員 中西 信吾 教諭 小林 忍	事前説明及び業務依頼
7月30日(金)	日高軽種馬農業協同組合	日高軽種馬農業協同組合 業務課長 小島 謙治 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 産業実務家教員 中西 信吾 教諭 小林 忍	事前説明及び業務依頼
8月2日(月)	日本軽種馬協会研修センター	北海道静内農業高等学校 教頭 加藤 和則 産業実務家教員 中西 信吾 教諭 小林 忍	事業計画の確認
8月3日(火)	北海道静内農業高等学校	日本農業新聞株式会社北海道支社 販売担当 福原 亮佑 様 北海道静内農業高等学校 教頭 加藤 和則 教諭 三浦 創	農業における情報の分析と活用に関する打合せ
8月5日(木)	(1)酪農学園大学 (2)北海道大学 (3)北海道放送	(1)酪農学園大学獣医学類教授 大塚 浩通 様 (2)北海道大学大学院農学研究院准教授 小林 国之 様 (3)北海道放送 コンテンツ制作センター統括 兼情報政策部長 藤枝 孝文 様 コンテンツ制作センター 兼情報政策部プロデューサー 栗山 亘 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 教諭 平岡 賢一	(1)獣医師志望者の進学に関する打合せ (2)視察研修に関する打合せ (3)講演に関する打合せ
8月5日(木)	日本軽種馬協会研修センター	日本軽種馬協会静内種馬場 場長 遊佐 繁基 様 日本中央競馬会日高育成牧場 場長 石丸 睦樹 様 総務部長 岡本 邦彦 様 北海道静内農業高等学校 教頭 加藤 和則 教諭 小林 忍	年間事業計画の概要説明、事業日程説明、協力依頼、指導助言
8月6日(金)	日本軽種馬協会研修センター	北海道静内農業高等学校 産業実務家教員 中西 信吾 教諭 小林 忍	年間事業の日程及び内容・依頼先などの組立てに関する打合せ
8月10日(火)	オンラインミーティング	北海道農政部生産振興局技術普及課 上席指導普及員 川口 招宏 様 北海道静内農業高等学校 教諭 三浦 創	地域園芸の特性と栽培技術(ピーマン・トマト)の授業に関する打合せ

8月11日(水)	オンラインミーティング	日高農業改良普及センター 主任普及指導員 太田 浩太郎 様 地域第一係長 伊藤 貴人 様 北海道静内農業高等学校 教諭 三浦 創	農家視察及び日程に関する打合せ
8月24日(火)	(1)国分北海道株式会社 (2)北海道農政部 (3)北海道教育委員会 (4)札幌テレビ	(1)国分北海道株式会社 代表取締役社長 諏訪 勝巳 様 経営統括部長兼人事総務部長兼地域共創部長 青山 知夫 様 (2)北海道農政部 マイスター・ハイスクールCEO 桑名 真人 様 (3)北海道教育委員会高校教育課 キャリア教育指導係指導主事 藤井 隆史 様 (4)札幌テレビ 事業局コンテンツ部 大阪 しの 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 教諭 平岡 賢一	(1)事業内容に関する打合せ (2)事業実施状況の報告 (3)事業実施状況の報告 (4)講演事業の実施に関わる打合せ
8月24日(火)	オンラインミーティング	藤女子大学人間生活学部准教授 奥村 昌子 様 北海道経済連合会 食クラスター統括部長 椿 淳 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一 教諭 千代 武志 教諭 八尾 健太郎 教諭 田中 彩佳	事業内容の打合せ
8月26日(木)	北海道静内農業高等学校	日高農業改良普及センター 主査 小林 佐代 様 北海道静内農業高等学校 教諭 三浦 創	事業内容に関する打合せ
8月30日(月)	日本軽種馬協会研修センター	日本軽種馬協会静内種馬場 装蹄師 金子 大作 様 北海道静内農業高等学校 産業実務家教員 中西 信吾 教諭 小林 忍	日本中央競馬会による授業内容の確認及び調整に関する打合せ
9月2日(木)	新ひだか町 有田農場 金森農場 新冠町 今野農場	日高農業改良普及センター 主任普及指導員 太田 浩太郎 様 地域第一係長 伊藤 貴人 様 北海道静内農業高等学校 教諭 三浦 創	農家視察先事前訪問
9月3日(金)	北海道静内農業高等学校	北海道静内農業高等学校 産業実務家教員 中西 信吾 教諭 小林 忍	事業の最終確認及び機材調整に関する打合せ
9月3日(金)	日本中央競馬会日高育成牧場	日本中央競馬会日高育成牧場 場長 石丸 睦樹 様 北海道静内農業高等学校 教頭 加藤 和則 産業実務家教員 中西 信吾 教諭 小林 忍	日本中央競馬会による事業内容の日程調整及び内容・講師選定に関する打合せ
9月11日(土)	オンラインミーティング	北海道農政部生産振興局技術普及課 花野菜センター駐在主任指導普及員 佐藤 元紀 様 北海道静内農業高等学校 教諭 三浦 創	事業内容に関する打合せ
9月15日(水)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 主任普及指導員 太田 浩太郎 様 主査 菊池 紀代美 様 北海道静内農業高等学校 教諭 三浦 創	事業内容に関する打合せ
9月17日(金)	オンラインミーティング	株式会社ハッピーアロー 代表取締役 森 順子 様 北海道教育委員会高校教育課 キャリア教育指導係指導主事 藤井 隆史 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一	授業セミナーに関する打合わせ
9月24日(金)	北海道静内農業高等学校	国分北海道株式会社 顧問 大谷 武史 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一 教諭 千代 武志 教諭 八尾 健太郎 教諭 田中 彩佳	事業内容に関する打合わせ 教育課程編成に関わる指導助言
9月29日(水)	日本軽種馬協会研修センター	北海道静内農業高等学校 産業実務家教員 中西 信吾 教諭 小林 忍	事業内容に関する打合せ
9月30日(木)	オンラインミーティング	石屋製菓株式会社 経営管理部部長 柳澤 和宏 様 北海道経済連合会食クラスター統括部長 椿 淳 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一 教諭 千代 武志 教諭 八尾 健太郎 教諭 田中 彩佳	事業内容に関する打合せ

10月5日(火)	オンラインミーティング	ベル食品株式会社 技術本部開発部部長 中島 隆志 様 北海道経済連合会食クラスター統括部長 椿 淳 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一 教諭 千代 武志 教諭 八尾 健太郎 教諭 田中 彩佳	事業内容に関する打合せ
10月7日(木)	オンラインミーティング	北海道総合研究機構 農業環境部生産技術グループ 研究主幹 福川 英司 様 主査 杉川 陽一 様 研究主任 小谷野 茂和 様 北海道静内農業高等学校 教諭 三浦 創	事業内容に関する打合せ
10月7日(木)	オンラインミーティング	株式会社セコマ 広報部 遠藤 佳代 様 企画本部販売企画部次長 三浦 公裕 様 北海道経済連合会 食クラスター統括部長 椿 淳 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 教諭 平岡 賢一 教諭 千代 武志 教諭 八尾 健太郎 教諭 田中 彩佳	事業内容に関する打合せ
10月14日(木)	オンラインミーティング	日本食品安全マネジメント協会 事務局長 小谷 雅紀 様 普及推進グループ 大澤 唯 様 北海道経済連合会食クラスター統括部長 椿 淳 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一 教諭 千代 武志 教諭 八尾 健太郎 教諭 田中 彩佳	事業内容に関する打合せ
10月19日(火)	日本軽種馬協会研修センター	北海道静内農業高等学校 産業実務家教員 中西 信吾 教諭 小林 忍	事業内容に関する打合せ
10月21日(木)	北海道静内農業高等学校	北海道静内農業高等学校 産業実務家教員 中西 信吾 教諭 小林 忍	事業内容に関する打合せ、通信テスト及び授業の最終確認
10月22日(金)	オンラインミーティング	ウマミール株式会社代表取締役COO 松原 壮一郎 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一	事業内容に関する打合せ
10月27日(水)	日本軽種馬協会静内種馬場	日本軽種馬協会静内種馬場 装蹄師 金子 大作 様 北海道静内農業高等学校 産業実務家教員 中西 信吾 教諭 小林 忍	事業内容に関する打合せ
11月4日(木)	日本軽種馬協会研修センター	北里大学獣医学部准教授 松浦 晶央 様 北海道静内農業高等学校 産業実務家教員 中西 信吾 教諭 小林 忍	マイスター・ハイスクール事業の概要説明及び令和4年度に向けた打合わせ
11月8日(月)	北海道静内農業高等学校	NTTドコモ北海道支社法人営業部 ICTビジネスデザイン担当課長 齋藤 伸一 様 ICTビジネスデザイン担当 秋山 紗永 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 教頭 加藤 和則 教諭 平岡 賢一	マイスター・ハイスクール事業概要の説明
11月9日(火)	(1)酪農学園大学 (2)NTTドコモ北海道支社	(1)酪農学園大学 獣医学類教授 大塚 浩通 様 社会連携センター事務局次長 高山 基樹 様 社会連携センター地域連携課課長 金子 千恵 様 (2)NTTドコモ北海道支社法人営業部 ICTビジネスデザイン担当部長 加藤 尚記 様 ICTビジネスデザイン担当課長 齋藤 伸一 様 ICTビジネスデザイン担当 秋山 紗永 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 教諭 平岡 賢一	(1) 獣医師志望者の進学に関する打合せ (2)マイスター・ハイスクール事業説明、講演打合せ
11月16日(火)	オンラインミーティング	日本食品安全マネジメント協会 事務局長 小谷 雅紀 様 普及推進グループ 大澤 唯 様 北海道経済連合会食クラスター統括部長 椿 淳 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一 教諭 千代 武志 教諭 八尾 健太郎 教諭 田中 彩佳	事業内容に関する打合せ
11月19日(金)	日本中央競馬会日高育成牧場	日本中央競馬会日高育成牧場 副場長 内藤 裕司 様 北海道教育委員会高校教育課 キャリア教育指導係指導主事 藤井 隆史 様 北海道静内農業高等学校 マイスター・ハイスクールCEO 桑名 真人 教頭 加藤 和則 産業実務家教員 中西 信吾 教諭 小林 忍	事業実施後の指導助言

11月19日(金)	日高軽種馬農業協同組合	日高軽種馬農業協同組合 業務部長 小島 謙治 様 北海道市場事業部部長 及川 哲也 様 北海道教育委員会 高校教育課 キャリア教育指導係指導主事 藤井 隆史 様 北海道静内農業高等学校 マイスター・ハイスクールCEO 桑名 真人 教頭 加藤 和則 産業実務家 教員 中西 信吾 教諭 小林 忍	事業実施後の挨拶及び助言
11月26日(金)	北海道静内農業高等学校	日本軽種馬協会 静内種馬場 装蹄師 金子 大作 様 北海道静内農業高等学校 教諭 小林 忍	事業内容に関する打合せ
1月24日(月)	オンラインミーティング	日糧製パン株式会社 営業本部 マーケティング部 部長 森安 朋子 様 商品企画課長 前川 諒 様 北海道経済連合会 食クラスター統括部長 椿 淳 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一 教諭 千代 武志 教諭 八尾 健太郎 教諭 田中 彩佳	事業内容に関する打合せ
2月4日(金)	北海道静内農業高等学校	北海道経済連合会 食クラスターグループ統括部長 椿 淳 様 食クラスターグループ部長 洪沢 淳一 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一 教諭 千代 武志 教諭 八尾 健太郎 教諭 田中 彩佳	令和4年度事業に関する打合せ
2月21日(月)	オンラインミーティング	雪印メグミルク株式会社 商品開発部長 畑本 均 様 北海道本部 関係会社統括担当部長 熊谷 秀樹 様 北海道本部 副本部長 齋藤 浩哉 様 北海道経済連合会 食クラスターグループ統括部長 椿 淳 様 食クラスターグループ部長 洪沢 淳一 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一 教諭 千代 武志 教諭 八尾 健太郎 教諭 田中 彩佳	事業内容に関する打合せ
2月22日(火)	オンラインミーティング	株式会社北海道博報堂 クリエイティブ・プランニング局長 エクゼクティブクリエイティブディレクター 長岡 晋一郎 様 ビジネスデザイン局 局長 南 大介 様 新どさんご研究所 所長 山岸 浩之 様 北海道経済連合会 食クラスターグループ統括部長 椿 淳 様 食クラスターグループ部長 洪沢 淳一 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一 教諭 千代 武志 教諭 八尾 健太郎 教諭 田中 彩佳	事業内容に関する打合せ
2月22日(火)	オンラインミーティング	国分北海道株式会社 経営統括部長兼人事総務部長兼地域共創部長 青山 知夫 様 人事総務部 人事総務課長 橋本 吉人 様 北海道経済連合会 食クラスターグループ統括部長 椿 淳 様 食クラスターグループ部長 洪沢 淳一 様 食クラスターグループ部長 小笠原 誠 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一 教諭 千代 武志 教諭 八尾 健太郎 教諭 田中 彩佳	令和4年度事業に関する打合せ
2月23日(水)	生活協同組合コープさっぽろ 静内店	生活協同組合コープさっぽろ 専務理事 中島 則裕 様 苫小牧地区 本部長 今野 雄一 様 室蘭苫小牧地区 組織統括 中村 博 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 教頭 加藤 和則 教諭 平岡 賢一	令和4年度事業に関する打合せ
2月25日(金)	国分北海道株式会社	国分北海道株式会社 経営統括部長兼人事総務部長兼地域共創部長 青山 知夫 様 人事総務部 人事総務課長 橋本 吉人 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一	令和4年度事業に関する打合せ
2月25日(金)	北海道経済連合会	北海道経済連合会 食クラスターグループ統括部長 椿 淳 様 食クラスターグループ部長 洪沢 淳一 様 食クラスターグループ部長 小笠原 誠 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一	令和4年度マイスター・ハイスクール事業に関する打合せ

2月25日(金)	オンラインミーティング	NTTドコモ北海道支社法人営業部 ICTビジネスデザイン担当 秋山 紗英 様 フロントSE担当 伊藤 由悟 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一 教諭 小山内 一弘 教諭 土田 隆太	講演事業に関する打合せ
3月18日(金)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 所長 宮町 良治 様 主任普及指導員 太田 浩太郎 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一	新規就農者に関する打合せ
3月18日(金)	オンラインミーティング	一般社団法人食品安全マネジメント協会 事務局長 小谷 雅紀 様 普及推進グループ 大澤 唯 様 北海道経済連合会 食クラスターグループ 渋沢 淳一 様 食クラスターグループ 小笠原 誠 様 北海道静内農業高等学校 教諭 平岡 賢一 教諭 千代 武志 教諭 八尾 健太郎 教諭 田中 彩佳	令和4年度事業に関する打合せ
3月23日(水)	(1)国分北海道株式会社 (2)ベル食品株式会社	(1) 国分北海道 経営統括部長兼人事総務部長札幌直送業務部長 萩庭 寿人 様 地域共創部長 青山 知夫 様 (2)ベル食品株式会社 管理本部総務部課長 鎌田 雅貴 様 技術本部開発部製品開発担当 部長 中島 隆志 様 北海道経済連合会 食クラスターグループ統括部長 椿 淳 様 食クラスターグループ部長 渋沢 淳一 様 食クラスターグループ部長 小笠原 誠 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 教諭 平岡 賢一	令和4年度の事業に関する打合せ
3月23日(水)	北海道中央農業試験場	北海道中央農業試験場 北海道農政部生産振興局技術普及科 農業研究本部駐在(技術普及室) 上席普及指導員 斯波 肇 様 独立行政法人北海道立総合研究機構 農業研究本部中央農業試験場 病虫部長 浅山 聡 様 農業環境部部長 渡邊 祐志 様 企画調整部長 吉村 康弘 様 企画調整部企画課長 神野 裕信 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 教諭 平岡 賢一	令和3年度事業の総括 令和4年度事業の打合せ
3月30日(水)	南華園株式会社	南華園株式会社 専務取締役 佐々木 泰美 様 国分北海道株式会社 人事総務部人事総務課長 橋本 吉人 様 地域共創部商品共創課グループ長 田口 静恵 様 北海道静内農業高等学校 校長 佐藤 裕二 教諭 平岡 賢一	令和4年度事業に関する打合せ

第3章 研究の実践内容

第1節 町の現状と将来像(生徒が主体的に町の現状と将来像, 地域産業の現状を把握して考察)に関する取組

I-1 日高の農業を知る

1 目的

- (1) ねらい 地域の農業と環境の実態などの具体的な事例を通じて地域の課題を理解できるよう指導する。
- (2) 身に付けさせたい資質・能力 ◎思考力 ○判断力

2 授業内容・研修内容

- (1) 期 日 8月24日(火)
- (2) 会 場 視聴覚室
- (3) 参加者 生産科学科1学年24名, 園芸コース2学年3名, 園芸コース3学年8名 計35名
- (4) 講 師 日高農業改良普及センター 所長 宮町 良治 様
- (5) 概 要 日高地域の農業の概要, 農業振興施策, 関係機関の取組, 地域の振興品目の現状と将来展望について, 統計データを活用し値の変化を確認しながら写真1のように学習した。

3 生徒の感想

- (1) 日高地域に住んでいるのに農業に関しては知らなかったことが多く, とても驚きました。
- (2) 今回の講義で日高は色んな品目が栽培されていることがわかりました。地域農業についてもっと知りたいと思いました。
- (3) 日高のみではなく, 全国的にみても後継者不足が大きな課題だということがわかりました。この課題を解決することが日高の農業を良くしていくために不可欠だと思いました。

4 成 果

- (1) 統計データを参考にしながら学習することで, 地域の農業実態を生徒に理解させることができた。
- (2) 地域の農業実態や担い手の不足が, 日高だけではなく, 全国的な課題であることを生徒に理解させることができた。

5 課 題

- (1) 地域の課題について, 解決方法や解決のための支援, 組織について生徒が理解できるように指導する必要がある。
- (2) 地域の課題解決を生徒に考察させるため, 事後学習としてグループワーク等を取り入れるなど指導内容を検討する必要がある。



写真1 「日高の農業を知る」の授業の様子

I-2 未来の日高農業の展望

1 目的

- (1) ねらい 地域農業の今後の展望について, 具体的な事例を通じて理解できるように指導する。
- (2) 身に付けさせたい資質・能力 ◎思考力 ○判断力

2 授業内容・研修内容

- (1) 期 日 1月31日(月)
- (2) 会 場 視聴覚室
- (3) 参加者 生産科学科1学年24名
- (4) 講 師 日高農業改良普及センター 所長 宮町 良治 様
- (5) 概 要 日高地域の今後の展望について, 特に施設園芸の安定生産のために必要なポイント, ミニトマト, ピーマン, デルフィニウムにおける振興対策などを写真2のように学習した。

3 生徒の感想

- (1) 農業の人手不足には担い手を呼ぶことも大切ですが、機械化したりICTの活用、データをとってシステム化することで労働時間を減らそうと取り組んでいることを発見できました。
- (2) 北海道の施設園芸の現状、今後安定的に生産物を生産するポイントについて知ることができました。こういうことが広まっていくと後継者も増えていくのではないかと思います。

4 成 果

- (1) 地域産業の抱える課題の解決方法や、課題の解決を多面的に捉えて考えることの大切さを生徒に理解させることができた。

5 課 題

- (1) プロジェクト学習と関連性を持たせながら生徒が地域の課題を解決する手法について理解を深めるよう指導する必要がある。
- (2) 課題の解決方法を生徒の間で共有できるよう、グループワークや発表活動などを取り入れて指導する必要がある。
- (3) 生徒の課題認識を共有させるため、食品科学科1学年に対しても実施する必要がある。



写真2 「未来の日高農業の展望」の授業の様子

第2節 新ひだか町長による地域が求める人材や職業人に関わる講話に関する取組

II-1 新ひだか町長と地域の未来を考える会

1 目 的

- (1) ねらい 新ひだか町の課題や将来の方向性についてSDGs開発目標に沿って理解できるようにする。また、地域社会や産業における課題を発見し、農業や農業関連産業に携わるものとして、合理的且つ創造的に解決に取り組む能力や態度を養うよう指導する。
- (2) 身に付けさせたい資質・能力 ◎思考力 ○実践力

2 授業内容・研修内容

- (1) 期 日 7月27日(火)
- (2) 会 場 北海道静内農業高等学校 体育館
- (3) 参加者 全校生徒129名
- (4) 講 師 新ひだか町長 大野 克之 様
- (5) 概 要 ディスカッション形式で、生徒の質問に対して大野町長が答える形で実施した。また、静内農業高校生として何ができるのかを考えながら写真3のように討議を行った。実際に数名の生徒に「私たちにできること」を発表させ、その内容について大野町長よりご助言を頂いた。

3 生徒の感想

- (1) 大野町長がどのような想いで地域を支えているのかを理解することができました。
- (2) 地域の課題について、たくさんの質問が出た中で、大野町長は全て答えることができている、驚きました。大野町長とこのような機会はなかなかないので、とても有意義な経験になりました。
- (3) 静内農業高校生としてどうあるべきかが、少し見えた気がしました。今回のことを機にさらに学習を頑張っていきたいと感じました。
- (4) 地域からの期待を強く感じました。自分たちにできることは大きなことではないけれど、地域のために頑張っていきたいと思いました。